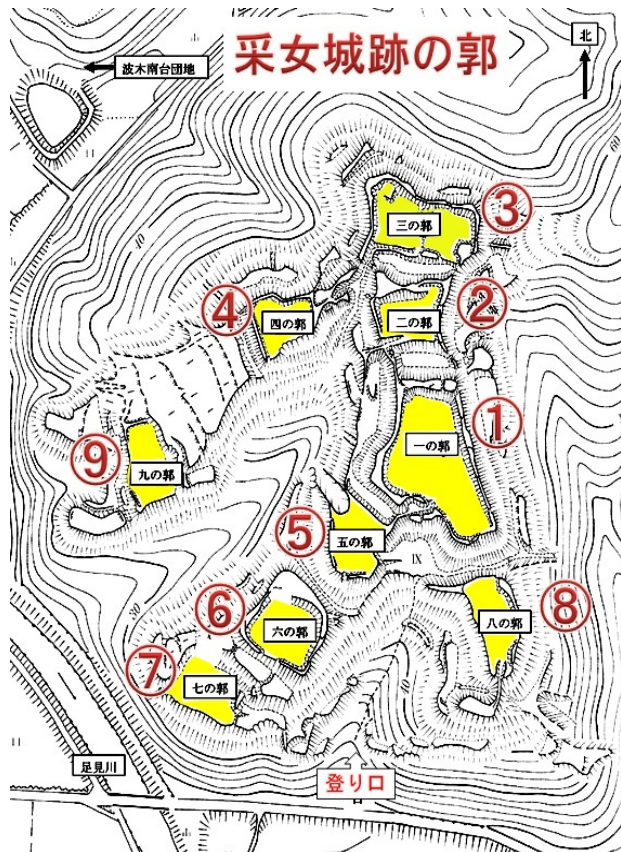


うねめじょうあと

# 采女城跡

四日市市市民緑地

3本の尾根筋に9の郭  
複雑に配置された中世の山城



## 交通アクセス

位置：四日市市采女町北山

四日市あすなろう鉄道内部駅より  
A:1.5 km、B:1.7 km、徒歩約 25 分  
内部地区市民センターより  
C:0.9 km、徒歩 13 分

城跡入り口前道路は通学路につき、時間帯により車両通行制限あり



県下有数の規模と  
良好な保存状態を誇る後藤家の城

内部川とその支流足見川が合流する内部川左岸で泊山丘陵南端に位置する采女城跡は、平治の乱で武功を立てた後藤家の末裔が遺したと伝えられる中世の山城です。

独立した9つの郭、郭の周囲に巡らされた土塁、郭を隔てる深い空堀、歴史を秘めた古井戸が今なお残っています。

采女城跡は平成 15 年（2003）に結成した采女城跡保存会の手で整備されており、平成 23 年（2011）には四日市市市民緑地に指定され、大勢の人が訪れています。



采女城跡保存会

連絡先：内部地区市民センター（059-345-3951）

## 遺構

～複雑な地形  
巧みに配置された郭  
今なお残る土塁と空堀～

城は南に内部川を望む標高50～70mの丘陵地形の尾根筋を利用して築かれ、比高は30～50mである。

城域内には2つの谷が入り込み、この谷によって3つに分かれた尾根に9つの郭が配置され、谷は城内に通じる通路となっている。それぞれの郭は堀切や深い空堀で隔てられて独立した形態をとっているが、空堀の片側は土橋となり郭と郭をつないでいる。

これらの郭の中央には30～50m×60mの台形の主郭（本丸）と考えられる一の郭があり、中央には素掘りの井戸が残る。南から一の郭に入る手前には鍵型の虎口がある。



登り口



柵で囲われた古井戸

郭の周囲には空堀を掘った土を盛って作られた土塁が巡らされ、場所によっては2mを超す高さがあるが南側の土塁はどこも低い。郭と郭の間は尾根を穿って作られた空堀で隔てられ、最も深いもので5mある。また二の郭の北側には土塁を広くとった高台があり櫓跡と考えられる。

付近には古市場（市場跡）、的場（弓の稽古場）、ごころ（番所を交代する兵士が御苦労と声かけあった）などの字名や矢矧橋（矢を作ること）、なこの坂（落城の際泣きながら逃げた）など、城に因む名前が残っている。



空堀



郭をつなぐ橋

## 後藤家の歴史

～平治の乱で武功を立てた後藤家の末裔～

采女城を治めた後藤氏は、藤原家の流れをくむ河内の武士で、代々源氏に仕え源頼義（前九年の役の武将、鎌倉に鶴岡八幡宮を建立）配下七将の一人であった。

後藤実基の時、源義朝の家老格としてその子基清とともに平治の乱（1159年）、屋島の合戦（1185年）に活躍し、平治物語・源平盛衰記・吾妻鑑に登場している。子孫は鎌倉幕府に仕え六波羅評定衆や検非違使に任じられた。

文応元年（1260）後藤基秀の時先陣に加わり功あり、伊勢の国三重郡采女郷の地頭職に任ぜられ、一族郎党を引き連れて采女の地に入り宇野部山（采女山）に城を築いて住んだ。

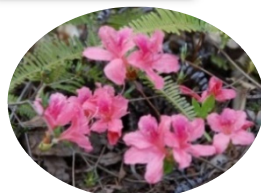
室町時代から戦国時代にかけては北勢四十八家といわれた三重郡・朝明郡・員弁郡・桑名郡の北方諸侍の中であって、良く家筋を護り采女七郷を治めた。

後藤藤勝の時、「永禄十一年（1568）織田信長の軍勢により滅ぼされ城遂に廃す」（伊勢名勝誌）

その際千奈美姫が落城の時、井戸へ身を投げて亡くなったと伝えられている。

## 采女城跡の植物

～内部川沿いの丘陵地  
市街地に残る豊かな自然～



ヤマツツジ



ショウジョウバカマ

タブノキ、コナラ、アラカシ、カクレミノが多く次にクロバイ、シャシャンボ、ヤブニッケイ、ヤマツツジが見られる。またタニウツギ、ギボウシ、ショウジョウバカマなどの特徴ある植物も見られ、シダの仲間も多数見られる。

## 語り継がれてきた物語

～采女城の落城と古井戸の秘話～

永禄十一年（1568）織田信長の家臣滝川一益が六千余人の兵を率いて北方より、城周囲の家々に放火して焼き払い、頃合いを見てこの時とばかりに采女城の四方より攻め立てた。

采女城には五百余人の兵が集結していたが、上へ下への大混戦となり、或る者は奮戦して討死し、或る者は逃げた。

城主後藤采女正藤勝は、燃える火の中で割腹して果てたと伝えられている。その時、千奈美姫や奥方も井戸に身を投げて亡くなったという。

後世人々の間にこの古井戸から……



安全柵で覆われた古井戸

「夜な夜な女のすすり泣きが聞こえてくる」とか、「馬のいななきや、女人の悲鳴が細く尾を引く」など、語り継がれている。

## 地理

～水沢扇状地の東端に  
位置する泊丘陵地～

采女城跡は四日市市の南部、水沢扇状地の東端、泊丘陵地の一角に位置している。一帯は50m～70mの丘陵地で、小さな谷や尾根筋が複雑に入り組み、南と西には内部川と足見川が流れて城の守りとなっている。

城跡の背後は雑木林が茂り、四日市市の南部丘陵公園に続いている。かつては地元の人が薪炭や肥料を採取する柴山であった。



八の郭から望む内部川と采女の町